

Y02a 「はやぶさ2」地球スイングバイ観測キャンペーンの実施報告

安田岳志(姫路市宿泊型児童館「星の子館」、JAPOS), 三島和久(倉敷科学センター、JAPOS), 井上毅(明石市立天文科学館、JAPOS), 井本昭(日本惑星協会), 山口智宏(ISAS/JAXA), 吉川真(ISAS/JAXA)

2015年12月3日に実施された、JAXAの小惑星探査機「はやぶさ2」の地球スイングバイの際に行われた観測キャンペーンについて報告する。2015年10月のJAXAの会見で、地上から「はやぶさ2」が観測できる可能性があるとの発表があり、全国の公開天文台や科学館等により、観測キャンペーンを行う事とした。日本公開天文台協会(JAPOS)からのメーリングリストでの呼びかけに対して、最終的に海外を含む35の施設からの申込みがあった。観測までの期間は、申込みがあった施設に対して、JAXAはやぶさ2プロジェクトより観測に必要な位置情報が提供され、また、観測についてのノウハウやテスト観測の画像をJAPOSのウェブを通じて発信し、観測者のサポートを行った。結果、当日は曇りや雨の地域もあったが、観測者の様々な工夫により、当初の予想を上回る数多くの観測地点で動画・静止画共に撮影に成功し、マスコミを通じて撮影成功のニュースが流れた。また、日本惑星協会(TPSJ)が一般向け支援を担うこととなり、JAPOS関連施設に加えて広く一般への観測支援データを提供することとなった。結果、観測地は施設の35に一般観測者の46地点が加わり、その観測成果も大きく拡大する結果となった。個人、公開天文施設、研究機関の3者が共同して、一般からの興味関心に応えた1例として、今後の同種のキャンペーンの参考になると考えている。